

③ 次は、温泉センターだあ

「ナスの里 大高村 高齢者療養福祉 国体記念温泉センター やすらぎ」の事務局長の畠山さんが、ナス名人で算数名人の春田さんにまたまた相談をもちかけた。

ナスの里大高村高齢者療養福祉国体記念・・・ 村長が何でも長い名前をつけるもんだがら、どこで息継ぎしていいかわがなくなっちまうんだが、今日のところは温泉センターでいぐ。

温泉センターのお風呂は男女混浴だあ。それが売り物だったが、最近は「こういうの好きでねえずら」という若いお客さんが増えて、畠山事務局長こまった。

お風呂は一つしかねえし、増設する場所も金もねえ。しだすけ、今の浴そうと洗い場を2つに区切って、男湯女湯に分けるより他にねえ。

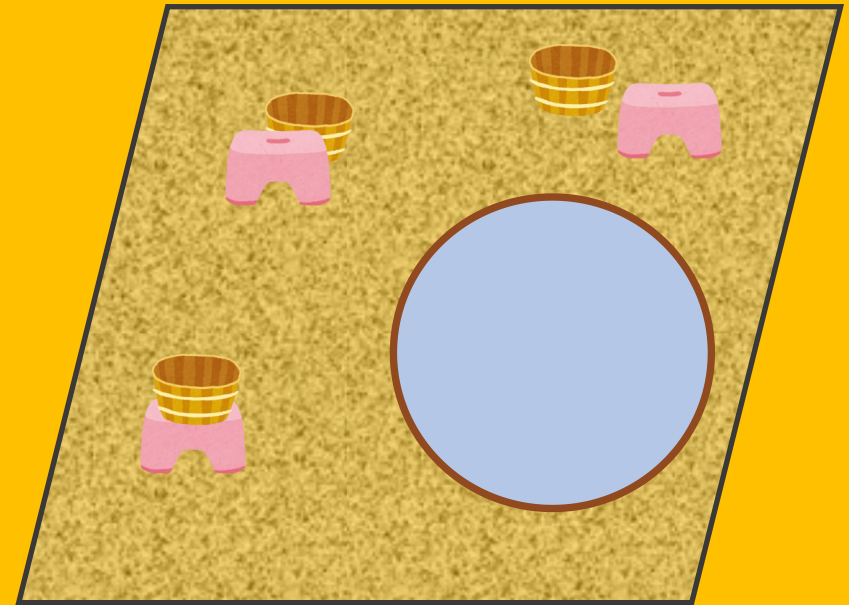


絵のように、お風呂の全体は平行四辺形で、円の浴そうがあり、周りは洗い場になっている。

なんせ男女平等の世の中だから、男湯も女湯も、浴そうも洗い場も面積が同じになるようにしたい、というのがセンター側の条件だあ。

1枚の直線の壁で仕切りたい。

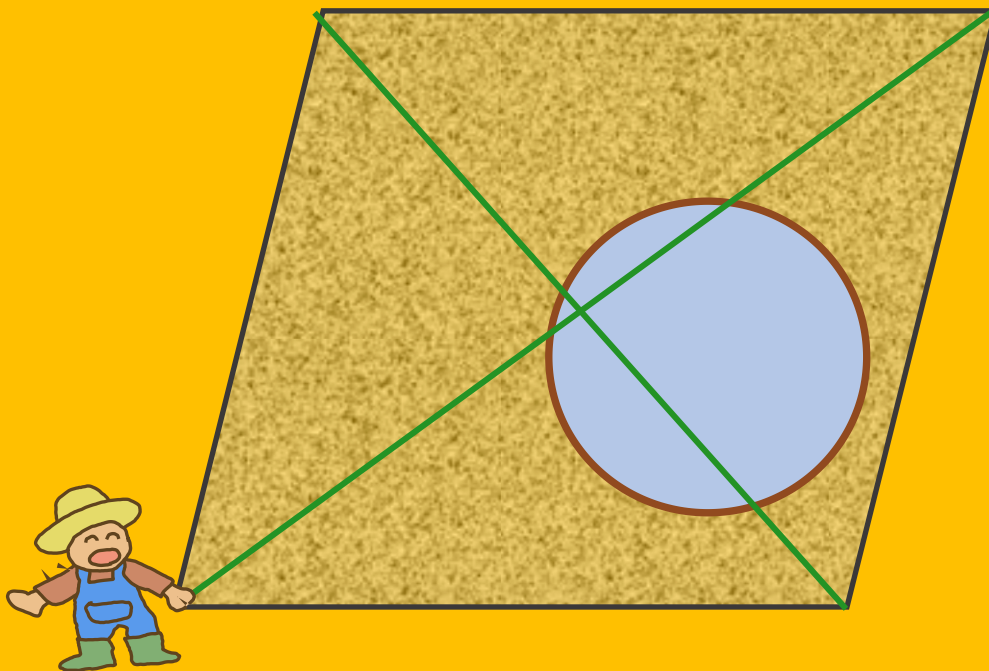
壁をどうもうければよいのでがしょう？



さて、春田さん、考えた。
『両方とも二等分だと・・・？
また、寸法がわからねし・・・』

次の日、春田さんは温泉センターに畠山さんを訪ねた。
春田さん、お風呂場で畠山さんにいった。
「おめ、この2本のロープを、洗い場の隅と隅、対角線にピンと張れ」

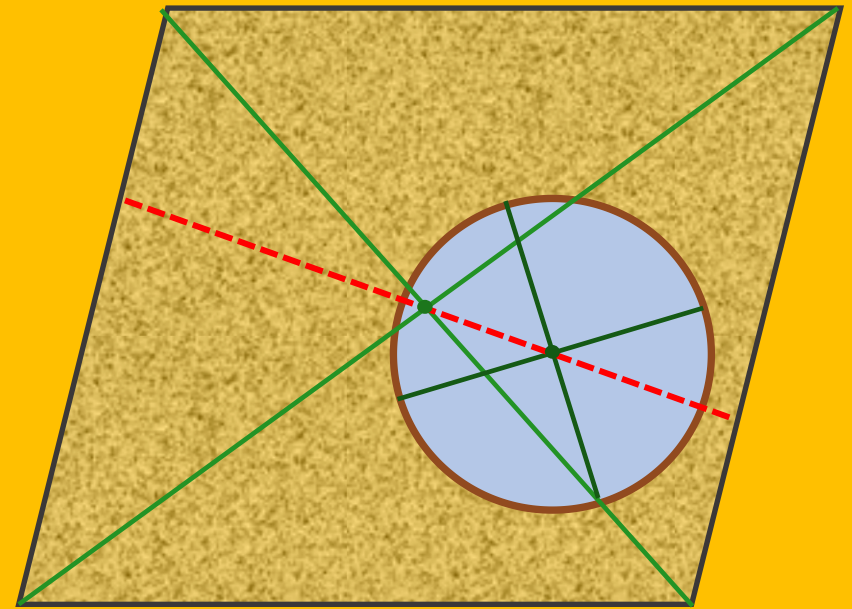
畠山さんはいわれたとおりにロープを張った。
次に春田さん、別の2本をわたして
「これで浴槽をバツテンに張れ。バツテンの長さが一番長くなるようにな」



「一番長くなるように・・・ こんな具合だろうか？」
と畠山さん。

「上出来だあ」と春田さん。

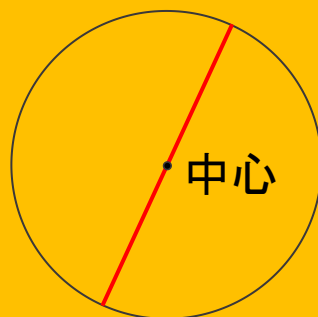
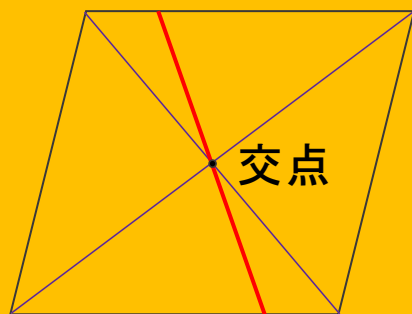
「したら、2つのバツテンそれぞれの交点を通る
ように、最後のロープをピンと張れ。できた線の通
りに壁をつくれればいいべさ」



こういうことが？



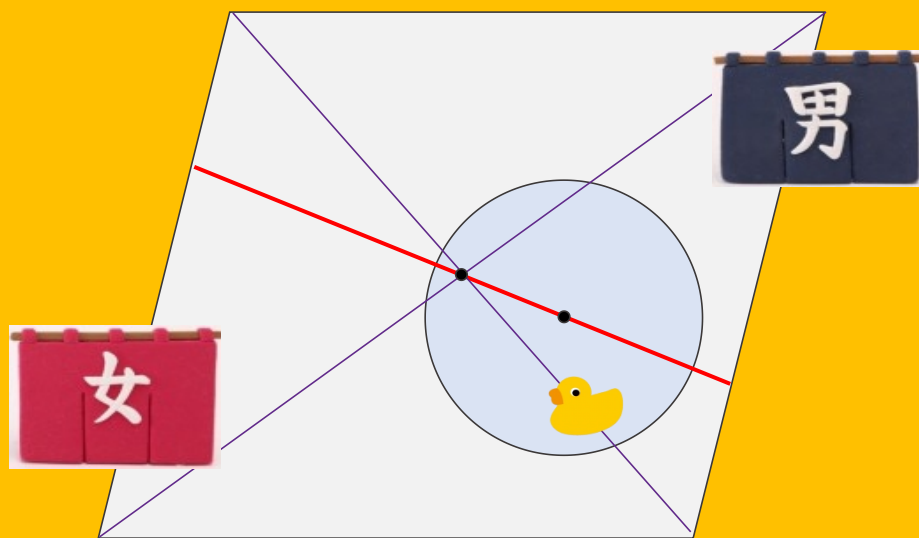
「おれ、わかんねっけ、説明してけろ」
畠山さんは春田さんに聞いた。
春田さんの説明は、こういうことだった。



平行四辺形は、2本の対角線の交点を通る直線で面積が二等分される。長方形も同んなじだあ。

円は中心を通る直線で面積が二等分される。

しだすけ、交点と中心の両方を通る直線で、浴そうも洗い場も二等分できる。



「合点があった！」
と畠山さん。

「春田さん、風呂さ入ってってけろ」

「ナス浮かべたナス湯ってどうだべ。
肌がスベスベになんでねが？」

